

ことは言ふまでも無い。
 第三に將來の鑛山では労働しない資本家の権利が徐程制限せられるであらう。更に進んでは鑛山は國家や生産者團體の手に移るであらう。これは夢を語つてゐるのではない。今日英米で盛に説かるゝ炭鑛國有論の如きは其兆候である。
 第四に將來の鑛山では益々生産が盛になるであらう。今日、労働は苦痛であるから坑夫自身、自然に怠業を行つてゐるが、それが社會の損害であるのは明かである。將來、労働が快樂となつた暁には大に生産は増加するであらう。これは是非そうなくてはならぬ。
 第五に將來の鑛山では坑内の設備が完全になるであらう。かくて坑夫は安んじて労働に親しむに至るのである。

三 人道的文明的方法に依る社會改造

深く考へて見るに人間はみな兄弟である。
 今日資本主義經濟組織の下に於ては資本家と労働者とは互に睨み合ふのである。然しながら是は資本家といふ個人の罪でなく組織の罪である。
 労働者は一日も早く今日の奴隸的境遇を脱出せねばならない。それには社會組織の適當なる改造が必要である。
 今や社會改造の聲が全世界に滿ちてゐる。鋭き社會的良心を有する人はすべて社會改造に心を傾けてゐる。社會改造の中心は労働者の状態の改善に存する。労働者は奮起せねばならぬ。
 而して其方法は他くまで人道的文明的方法でなければならぬ。資本家に對する憎惡心や復讐心のみを基礎とする労働運動は無價値である。私たちは正々堂々と人類解放社會改造の大旗をおし立て、進まねばならぬのである。